

## 硬質ポリエチレン材料による 護岸工の施工例

空気や水の質が悪化することにより、腐食に対して強い建設材料が必要となってきた。この要求を満たすものとして硬質ポリエチレンが 1966 年以来用いられてきた。この材料はまた軽量のために輸送が容易であること、耐摩滅性があり、こわれにくいこと、熱に安定であることなどの長所があるが、経済性についてはまだ判定しうるほどの資料が得られていない。

製造されている護岸工の材料の寸法は、厚さ 1~3 mm で幅は 1400 mm までのものである。25 m を単位として販売されているが、施工の種類によっては、穴をうがったものや、細長い形のものなど、いろいろのものが用いられている。

写真-1 は 80×20 mm の開孔をもつ 1 mm の厚さの版を用いたのり覆工の例である。こののり覆工は 1000

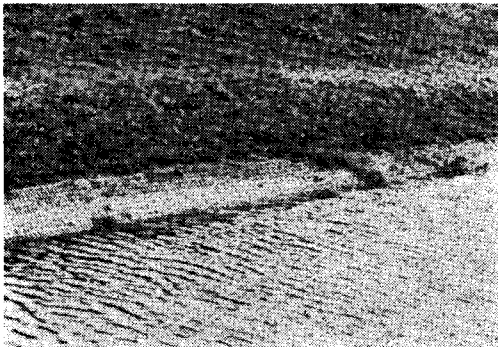


写真-1 のり覆工の例 (1966 年秋竣工)

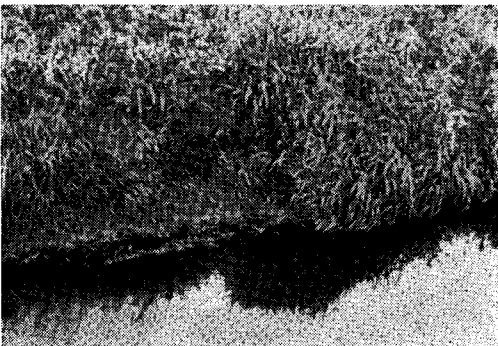


写真-2 1970 年夏の状態

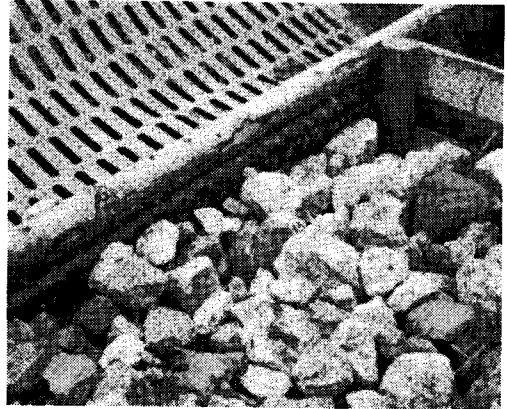


写真-3 砕石を併用した排水路の護岸工

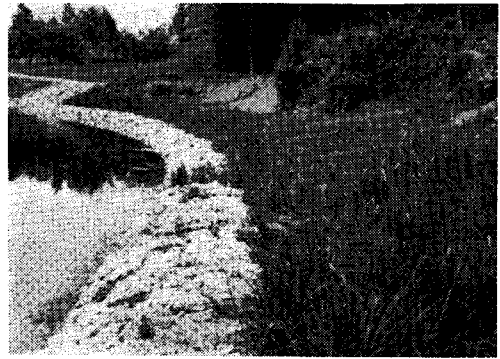


写真-4 弯曲部での護岸竣工の6か月後の状態。  
のり留工として砕石を使用

~1400 mm の幅をもち、土質によっては木杭や鉄筋コンクリート杭を 1~1.5 m 間隔で打ち込んで固定している。こののり覆工の5年後の状態が写真-2で、開孔部に雑草が繁茂している。こののり覆工は従来用いられてきた建設材料とも一緒に用いられることがある。写真-3は割石と一緒に用いられた例であって、これを弯曲部の護岸に用いた状態を示すものが写真-4である。このような硬質ポリエチレン版はまた、掘削した水路ののり留工にも用いられている。

“Einsatzmöglichkeiten von Kunststoffbahnen aus Hart-Polyäthylen im Wasserbau und landwirtschaftlichen Kulturbau”

Krahl, J.

Wasserwirtschaft 62-3, pp. 70-72, März (1972)

(吉野 文雄・訳：東京大学生産技術研究所)

— 新刊発売中 —

# ダム基礎岩盤グラウチングの施工指針

900 円  
会員特価  
800 円  
(〒90 円)